

留学を振り返り

フランス使い最終章となりました。今までの約5か月間を振り返ると本当に沢山の経験ができたと感じます。

フランスに初めて到着した日の事を今でも思い出すことがあります。ストラズブール空港に着いてからストラズブール駅へ向かう電車に乗るために切符を買おうとしました。しかし、券売機の画面に表示されるフランス語が分からず、機械が不調だったこともあり、電車に乗ることができませんでした。空港から駅までタクシーで向う道中、切符も買えない自分にとっても不安になったのを強く覚えています。今思えば些細な何てことない事でしたが、この日が留学先で幾度となく体験した一番初めの挫折でした。

ホームステイを初めて一ヶ月間毎日が新しい発見ばかりで、毎日が楽しみで仕方がありませんでした。食事の方法、挨拶の仕方、会話の仕方、全てホストファミリーの言動をなんでも真似していました。ストラズブールの街に出れば、古い建物等を見て回ったり店員さんや街の人と会話したりしました。この頃は、環境になじもうと必死でした。大阪で約一年間一人暮らしをさせていただいたので、久しぶりに家庭に入る環境に慣れないこともありました。自分に自信が持てず、部屋に籠ってしまったり、人と接するとき消極的になったりしてしまう時がありました。しかしその度に、うまく言葉を伝えられない私の言葉を聞こうとしてくれる、ホストファミリーや学校の先生に背中を押されました。

冬休みにフランス全土にわたって電車のストライキが行われ、家から出ることができずにいた時、それを見かねたホストファザーが仕事場に連れて行ってくれたことがありました。ホストファザーは、子供向けのショーをしている方で、彼がショーを始めると会場は子供たちの笑顔と大きな声援でいっぱいになります。どんなに辛い時でも、仕事に行っていたホストファザーですが、私はこの時初めて彼の仕事を実際に見て、とても感動したのと同時に、もっと頑張らなくてはと、気が引き締まったのを覚えています。沢山の試練と愛をくれたホストファミリーには、とても感謝しています。

そして、フランスに留学する上で経験し、超えるべき目標であり、不安要素でもあった異文化に対する差別的な言動を実際に経験することがありました。ですが、私はそれを実際に目の当たりにし、時にはその対象が自分であると感じた時でも傷つくことは一度もありませんでした。それは、相手の言動の理由が具体的なものではなく、漠然とした物だったからという事もありますが、一番は自分の中でフランス人がそういう人たちばかりでは無いと知っていたからだと思います。些細な事ではありますが、今回の留学が初めての海外経験であった自分にとって、これはとても大切な事でした。日本が大好きだと言ってくれるホストファミリーに出会うことができ、語学学校でもフランス以外の国籍の人たちともフランスという国を通じて、お互いの国の文化を共有し、理解することができました。どこまでが個性でどこまでが異文化によるものなのか、それを理解したうえで、他人を尊重する気持ちが異文化を受け入れられる心につながるのではないかと思います。

留学生活を通して、私の中で語学を学ぶ事の方が大きく変わったように感じます。以前は、国語や数学の様に机に向かって勉強するものという考えが強くありました。ですが、自身の学んだ言

2月

フランス使い

I8P065 田中早弥

葉を实践できる環境にいる事で、相手が何を伝えようとしているのか、自分は相手とどんな話がしたいのか、常に考え、探していました。語学は、勉強というよりも人と人のコミュニケーションの方法の一つであるという事を改めて実感しました。ホストファミリーが会話している声が、初めは単なる音に聞こえていました。ですが、だんだんその音が言語に変わり、自分を表現するものになりました。少しずつ分かるようになるにつれて、もっと根本的な自身の課題が見えてくるようになりました。話せないからではなく、自分の人間性によるものではないかと考えるようになりました。この課題は、ずっと尽きることなくこの先もあり続けると思います。それでも、フランスで出会った沢山の人たちが私を受け入れてくれたように、自分も一つ一つ自分に向き合っていきたいです。

ホストファミリーの存在は私にとって、常に励みであり試練でした。家族との楽しい思い出と共に、不安と焦りで自己否定してしまう気持ちが常にありました。他人である私を本当の家族の様に接してくれるホストファミリーに、フランスに留学へ行かせてくれた家族を重ねていました。自身に持病がある事もあり、私の身を心配して反対していた両親ですが、私の気持ちを尊重して留学に行かせてくれました。昔は顔を合わせば喧嘩ばかりだった姉も忙しい中、空港までお見送りに来てくれました。家族は、実家を出てから今までも変わらず私にたくさんの心配と愛をくれました。私がフランスに行きたいと思えたきっかけだったフランス語の授業の先生方、至らないばかりの私を最後までサポート、ご指導していただいた今中先生、ビザ申請の手続きを手伝って下さったブノワさん、私を受け入れてくれたホストファミリー、そして、一緒にこの留学を経験した金さん。意見交換する中ではっきりと反対意見を言ってくれ、時には叱ってくれました。金さんがいたからこそ、しっかりと自分と向き合えました。その他の留学に関わってくださった方々、全ての方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

この約5か月間は、楽しかったと言わずには言い表せないほどに苦しく充実した日々でした。具体的な将来の目標はまだ見つけられていませんが、フランス人と関わる仕事がしたいという夢ができました。今後も、フランス語の勉強を続けてホストファミリーを驚かせるくらい成長してフランスに帰りたいです!!



最後まで読んでくださりありがとうございました。